公益財団法人８０２０推進財団
令和７年度歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

１．事 業 名：医科歯科連携の事業

２．申請者名：（一社）会津若松歯科医師会　代表理事　小柴　誠

３．実施組織：（一社）会津若松歯科医師会

４．事 業 の 概 要：

地域における医科歯科連携を推進する目的に、病院歯科、大学病院口腔外科との連携を図り、地域全体の連携医療を図ってきた。個々の歯科医師のスキルは向上し、各診療所における連携医療の意識改革が推進した。会津若松医師会との間に正式な医科歯科連携協議会も立ち上げることが出来、本事業の最終年度の取り組みとして、周術期口腔管理の医師会・歯科医師会レベルでの構築を作り上げることが出来た。

５．事 業 の 内 容：

いままで、常勤歯科医師が不在である福島県立医科大学附属会津医療センター歯科に対して、会津若松歯科医師会、会津中央病院歯科口腔医療センター、新潟大学顎顔面口腔外科での共同により、病院歯科医療のサポートを行ってきた。この事業は会津若松歯科医師会地域歯科医療連携推進臨時委員会(委員長：遠藤秀樹)にて管理し、ハイリスク症例や術後継発症などに対してのスキルアップを図った。令和５年度には、実務的な会津方部医科歯科連携協議会を立ち上げ、医科歯科連携に関する問題点を拾い上げ、より密着した連携を図るとともに、高齢化社会における医科歯科連携推進による健康維持効果をアップさせることが出来た。その後、医師会と歯科医師会との間で正式な医科歯科連携協議会を立ち上げ、最終年度としては、特に病院医科からの退院患者に対する周術期口腔管理を充実させ、より充実した高齢者医療対策に繋ぐことを目的とした。具体的には、メーリングリストなどで、常に情報交換が出来る体制を利用し、医科歯科連携研修会を介し、会員へ情報提供した。

６．実施後の評価（今後の課題）：

派遣事業については問題なく行われており、会員のスキルアップ、医師会からの評価の向上に寄与できた。医科歯科連携のなかで、お互いの連携に対する認識は向上し、医師会と歯科医師会との間で設立した医科歯科連携協議会の役割が安定する結果となった。本年度は特に周術期口腔管理に重点を置いたが、今後は、認知症や糖尿病など、医師会で重点化されている疾患に対する医療連携の向上を図る予定である。